

2010年9月14日

株式会社 富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町

2-5 F・Kビル

TEL.03-3664-5839 FAX.03-3661-1414

URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>URL: <http://www.fcr.co.jp/>

広報部 03-3664-5697

クラウドセキュリティやSaaSセキュリティの台頭により再び好調さを取り戻す

ネットワークセキュリティビジネスの国内市場を調査

2014年度予測

全体市場 7,636億円(09年度比157.8%) 10年度よりサービス市場への移行が開始
 セキュリティコンサルティングサービス 300億円(09年度比315.8%) 企業連携で専門性を強化
 ウイルス監視サービス 400億円(09年度比210.5%) クラウド環境へのサポート拡充で

マーケティング&コンサルティングの株式会社富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 田中一志 03-3664-5839)は、国内のネットワークセキュリティビジネス市場を調査分析し、その将来を予測した。その結果を報告書「2010 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧」にまとめた。

報告書の上巻では、新たなビジネスの台頭や、シマンテックによるペリサインの買収などセキュリティ事業者の再編が進む変革期に、クラウドコンピューティングやSaaS化が与えるセキュリティ市場へのインパクトをはじめ、近年のビジネストレンドを分析した上で、セキュリティサービス/関連製品市場の調査を行った。下巻では、セキュリティツール提供者やソリューションプロバイダの事業戦略を調査・分析し、さらに今年度版よりユーザーアンケート調査も実施し、シーズ/ニーズの両面からセキュリティビジネスの方向性を多角的に分析した。

ネットワークセキュリティ市場は好調に推移してIT産業拡大の一翼を担って来たが、世界同時不況によるIT投資抑制の煽りで大規模案件の先送りや縮減などから縮小した。ネットワークを軸とする企業がネットワークシステム/情報システムを安全に運用していくには、恒常的なセキュリティ対策が必要不可欠である。また企業のコンプライアンスやCSRの観点からもセキュリティ対策の必要性が高く、この不況下においてもセキュリティレベルを維持強化する投資には底堅い需要がある。

さらにセキュリティ対策市場の成長には、関連法規の整備が重要な役割を果たしており、これまで個人情報保護法や日本版SOX法によって急成長して来た。今では主な企業はこのような法規制への対応を済ませており、今後はセキュリティへの真の脅威への対策といった本質的な対策の必要性を訴求する必要がある。

セキュリティへの投資抑制と企業意識の高まりから、効率的セキュリティ対策への潜在需要はより拡大している。この需要を顕在化させ、セキュリティビジネスに活況を取り戻すのがクラウドセキュリティでありSaaSセキュリティのビジネスである。企業では、クラウドコンピューティング、SaaSなど情報システムの利用形態が大きく変革しつつあり、ネットワークセキュリティビジネスにはこうした変革の潮流に則したソリューション提供こそが重要なポイントとなる。

いかに速やかにセキュリティソリューションビジネスを展開するかがツール企業やシステム事業者の大きな差別化手段であり、また新たな潮流の中で優位性を確保する手段となる。今後のセキュリティビジネスには、コストパフォーマンスの高さや運用負担の少ないソリューションをいかに的確に提供するかが欠かせない。クラウドコンピューティングやデータセンタなどを活用し、ユーザーリソースに依存しないソリューションの提供が新たなビジネスチャンスに繋がって行くであろう。

< 調査結果の概要 >

ネットワークセキュリティ市場

分類	2009年度	2014年度予測	09年度比
サービス 14品目	1,179億円	2,958億円	250.9%
製品 6分野31品目	3,660億円	4,678億円	127.8%
(フィジカルセキュリティ 4品目)	1,101億円	1,313億円	119.3%
合計	4,839億円	7,636億円	157.8%

* フィジカルセキュリティ：現実社会の物理的セキュリティ この管理にもネットワークが関連しつつある。

対象としたネットワークセキュリティ全市場の14年度予測は、09年度の1.5倍強、7,636億円に達する。

富士キメラ総研調査報告書「国内IT市場 2010年版<業種研究編>」によると、09年度の国内IT市場は17兆5,000億円、08年度に比べ7.4%のマイナス成長となった。金融業、製造業を中心とした大幅な設備投資縮小が主要因と考えられる。一方、ネットワークセキュリティビジネスの市場は09年度4,839億円と08年度に比べ2.1%マイナスながら国内IT全市場と比べてマイナス幅が小さく底堅い。

クラウドコンピューティング市場は、サーバ、ストレージ、アプリケーションなど全てを外部リソース活用に依存するため、柔軟にシステムが利用できる利便性が注目を集めている。一方で移行データの物理的・論理的管理がわかりにくいという課題があり、より高度なセキュリティ対策を必要とする。しかし、SaaSビジネスが拡大して導入コストが下がり、中堅・中小企業の開拓が加速しており、クラウドセキュリティ/SaaSセキュリティは今後のセキュリティビジネスを後押しする重要な鍵となる。

10年度以降は景気回復によって、企業の先送り案件が動き出し、IT投資の回復とともにセキュリティ市場の拡大が見込まれる。特に運用負荷の軽減を目的としたセキュリティサービス利用の拡大、新たな脅威やリスク管理に対するセキュリティ対策の需要が市場を拡大すると予測される。セキュリティ投資に対するコスト抑制や企業の意識の高まりから、効率的かつ有効なセキュリティ対策の潜在需要はより拡大していると考えられる。こうした需要を顕在化させるのがSaaSセキュリティであり、クラウドセキュリティビジネスである。

セキュリティサービス市場(14品目)

09年度から14年度までの年平均成長率、マーケットシェアから、セキュリティサービス14品目の中で最も有望なのはウイルス監視サービスである。増え続けるウイルスへの対策の必要上、継続的な需要が見込まれることに加え、クラウドコンピューティングの普及とともにブラックボックスであるクラウド環境のセキュリティ対策として需要の拡大が見込まれる。

次いでオンラインバックアップサービス、不正アクセス監視サービスが挙げられる。これらサービス市場は、近年拡大を続けるアプリケーションのセキュリティ脅威対策や機器/ツールからサービスへの需要移行を背景として拡大している。オンラインバックアップサービスでは従来、大手企業を中心にサービス展開されてきたが、近年中堅・中小企業向けの提供サービスが増えて市場が拡大している。

ログ管理サービスも市場は小規模であるが、最も平均成長率が高く有望である。このサービスは個人情報保護法や日本版SOX法の施行によって認知度が高まったものの、大手企業による導入に限定されていた。しかし、クラウドコンピューティングの進展に伴い需要の拡大が見込まれる。

ネットワークセキュリティ製品(6分野31品目)

09年度から14年度までの年平均成長率が高いのは、内部統制対策ツール、アプリケーション対策ツール、メールセキュリティの分野である。アプリケーションセキュリティ市場は小規模であるが、近年ではWebアプリケーションを狙った被害が増大しており、Webアプリケーションファイアウォールのような比較的新しい市場が急成長する見込である。また市場規模の大きいワンタイムパスワードは、SaaSサービス利用ユーザーの増加に伴い、サービス提供事業者のセキュリティ対策を強化する意識が高まっており、認証基盤として利用が増加している。その他にこの分野の主な製品には、Webフィルタリングソフト、ファイアウォール/VPNアプライアンス、ウイルス対策ツール、データベースセキュリティ製品、電子メールセキュリティアプライアンス、映像監視システムなどがある。

<注目される市場>

ウイルス監視サービス(法人向け)

2009年度 190億円 2014年度予測 400億円(09年度比210.5%)

この市場では、法人向けとシステム事業者向けのサービスを対象とした。社会問題化するウイルス事故が発生するたびに市場が形成され、現在では、全く未対策の企業は皆無である。しかしネットワーク上のウイルス対策・対応は常に継続して対処しなければならないので、10年度以降も需要は持ち直して行くと思われる。サービス形態の多様化が進み、ユーザーの裾野が広がり、今後は大企業から中小企業に至るまで、必要なウイルス対応レベルを見極めたサービス提供が増大すると見られる。企業の対策は、あくまでも既知のウイルスであり、未知ウイルスへの対策はノウハウを構築・蓄積している専門ベンダのサービスの必要性がクラウド環境下ではより高まる。

法人向けのウイルス対策ツール市場は、トレントマイクロ、シマンテック、マカフィーの3強が寡占している。特にトレンドマイクロは国産事業者として製品サポート、クラウドサービスなど優位にセキュリティニーズに応える体制を拡充して、09年金額シェア第1位を占めている。

セキュリティコンサルティングサービス

2009年度 95億円 2014年度予測 300億円(09年度比315.8%)

企業経営を見据えたネットワークセキュリティコンサルティング、セキュリティリスク分析サービスおよび認証取得支援サービスを対象とする。09年度は前年度比10%程度の減少となったが、10年度に入り市場は徐々に持ち直しており、市場の底上げが期待される。

中長期では、クラウドコンピューティング環境が浸透して市場拡大の要因となり、12年前後が新たなターニングポイントと予測される。高度なネットワークセキュリティが求められ今後更に新たな領域のセキュリティコンサルティングサービスが立ち上がると予測される。サービス事業者には新たな技術や手法が求められ、単独対応では不十分なケースが発生するため企業合併や企業の合従連衡に拍車が掛かりそうである。専門特化したサービス事業者は、NRIセキュアテクノロジーズ、インフォセック、グローバルセキュリティエキスパート、ラックなどである。

Webアプリケーションファイアウォール

2009年度 16億円 2014年度予測 38億円(09年度比237.5%)

Webアプリケーション攻撃に対するセキュリティツールである。Web上の脆弱性を突く被害が相次ぎ市場が形成された。導入ユーザーは大規模なWebシステムを持ち、金融機関や公共機関といったセキュリティ意識が強く、かつWebサイト利用を重視する企業である。この製品に対する潜在需要が高いが、如何に低価格製品を提供出来るかが鍵である。特に中堅中小企業ではランサムウェアへの対策を必要としており、機能を絞った廉価製品の登場も推測される。また、SaaS型セキュリティビジネスを提供している企業も登場しており、このビジネスの行方に関心が高まっている。

ワンタイムパスワード

2009年度 71億円 2014年度予測 91億円(09年度比128.2%)

アクセスの際、一回限りのパスワードを発行して本人認証を行ない、パスワードの盗難、推測などによる第三者アクセスを防止するシステムである。この市場はこれまでUSB、ICカードなどを利用したシステムを中心に市場が形成されてきた。スマートフォンなどモバイル端末の高性能化、低価格化に伴う普及やシンクライアントシステムの普及に伴い、企業におけるリモートでのサーバアクセスの必要性が高まっている中で、情報漏えい、不正アクセス防止などの対策が重要視されておりニーズは高まっている。

09年の金額シェアトップのRSAセキュリティは大手企業を中心に順調に需要を確保している。SaaSサービスを利用するユーザーが増加すると共にサービス事業者はこの製品を認証基盤とするケースが増加している。そのためSaaS/クラウドサービスの拡大がこのシステムの市場を拡大している。

以上

<調査対象>

ネットワークセキュリティサービス		14品目
ネットワークセキュリティ製品(6分野)		31品目
ネットワークセキュリティ提供事業者	SI企業	45社
	ベンダ	16社

<調査方法>

(株)富士キメラ総研専門調査員による調査対象・関連企業に対してのヒアリング取材及び(株)富士キメラ総研社内データベースの活用による調査・分析

<調査期間> 2010年4月～8月

資料タイトル:「2010 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧」
体 裁 : A4判 上巻:289頁 下巻:256頁
価 格 : 各97,000円(税込み101,850円)
CD-ROM付価格 : 107,000円(税込み112,350円)
調査・編集 : 株式会社 富士キメラ総研 研究開発本部 第二研究開発部門
TEL:03-3664-5841 FAX:03-3661-7696
発 行 所 : 株式会社 富士キメラ総研
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル
TEL03-3664-5839(代) FAX 03-3661-1414 e-mail:info@fcr.co.jp
この情報はホームページでもご覧いただけます。
URL: http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ URL: http://www.fcr.co.jp/